はまみん

浜松市民生委員児童委員協議会 広報誌

第28号
2025.3

宮崎県宮崎市において第93回全国民生委員児童委員大会が開催され、全国から約2,700人の委員が集いました。浜松市からは15名の委員が参加しました。

1日目の式典では、オープニングでは天岩戸神楽保存会による神楽に始まり、全民児連会長表彰、加納ひろみ氏による「向こう側の笑顔とこちら側の笑顔～まずは私が幸せでいよう～」と題した特別講義がありました。優良地区民児協表彰では、浜松市から「芳川南地区民児協（中央区南）」が受彰しました。

2日目は、「子育て・子育ちを応援する地域づくり」、「持続可能な民生委員・児童委員制度・活動に向けて取り組むべきこと」など6つのテーマごとに分かれて、活動交流集会・シンポジウムが行われました。

浜松市民生委員児童委員協議会

〒432-8035　浜松市中央区成子町140-8　浜松市社会福祉協議会内

TEL 053-453-0580　FAX 053-452-9218

HP

第93回　全国民生委員児童委員大会（宮崎大会）

シンポジウム

シンポジウムでは、杉山会長（浜松市民児協）がシンポジストとして登壇し、全民児連地域福祉推進部会からの報告と、浜松市におけるなりて確保の取組みについて発表しました。

全民児連及び全民児連地域福祉推進部会からの報告

活動にやりがい、楽しさ

令和５年の実態調査によると、委員の推薦がスムーズな地域は、日頃から委員と自治会等との推薦組織との連携が出来ていて地域活動が活発といった特徴があり、民児協内の風通しがよく、活動に「やりがい」や「楽しさ」を感じている委員が多い。そこで全民児連としては、国、地方自治体、各地の民児協、全民児連が取り組むべきこと（企業への働きかけ、推薦方法の多様化の検討、委員が活動しやすい環境づくり、広報活動の支援など）をそれぞれに提案しています。

浜松市におけるなりて確保の取組みについて

・なりて確保の取組みは、早期に結果が出るものではない。
・自治会等の推薦団体任せにはせず、日頃からの顔の見える関係づくりが大切である。
・民生委員・児童委員のみではなく、自治会等の地域組織全般においてなりて不足になっていることを理解し、地域全体で検討していくことが大切である。
・地域住民に民生委員・児童委員の存在や魅力・やりがいを知ってもらうために広報活動は重要である。

なりて確保の取組みについてのディスカッションでの杉山会長の発言

・地区民児協の定例会を単なる伝達の場にせず、それぞれの活動事例を共有する場にすることが大切。「こんなことがあって大変」「どう対応すべきか」などと意見を出し合うことで、経験値も上がると思います。
・新任の委員を大事に育てることが地区民児協会長の大きな責任です。一つひとつの活動に対して「ありがとう」と声をかけるなどの心配りが、活動継続につながると考えます。

活動交流集会

1 高齢者・障がい者が安心して暮らし続けることができる地域づくり(地域包括支援)

【参加委員の報告】
地域づくりの役割としての「地域に求められていること」、「民生委員・児童委員に求められていること」、「民児協に担ってもらいたい役割」について、これらが生活者に与える大きさと重要性、とくに民生委員・児童委員の権利である意見具申の重要性を再認識できました。

2 子育て・子育ちを応援する地域づくり ～主任児童委員制度創設30周年を踏まえた今後の取り組み～

【参加委員の報告】
3つの県・都市より、委員のためのハンドブックの作成や居場所づくりとしての「心の談話室」の開設等、主任児童委員が児童委員と連携して活動した事例発表がありました。言葉のキャッチボールによる「コミュニケーションのパワー」がネットワークの構築につながるという言葉が印象に残りました。

3 生活困窮者への支援と地域共生社会の実現

【参加委員の報告】
気付く（身近な存在であること）、つなぐ・つながる（諦めずに関わり続けること）、つくる（支援を広げていくこと）で、その先に地域共生社会の実現があるということでした。寄り添う気持ちをさらに身につけたいと思います。

4 民生委員・児童委員活動の推進および民児協機能強化に向けて

【参加委員の報告】
民生委員・児童委員が活動しやすい環境整備（ICT活用）と、「地域版活動強化方策」に基づいた民児協の役割、機能のあり方を学びました。信頼に基づく集団の力が民児協機能を強化することを改めて痛感しました。

5 災害に備える民生委員・児童委員および民児協組織としての取り組み

【参加委員の報告】
災害にどのように備え、向き合うのか研修しました。災害発生前から地域住民との信頼関係を構築するなどの地域づくりが重要であること、また災害発生後は自分や家族の安全を第一に考えたうえで、被災された住民の良き相談相手となり、関係機関へつないでいくことが大切であると学びました。

区専門部会活動報告

１期３年の事業計画も２年目を迎えた中で、各区の専門部会活動の様子についてご紹介します。

中央区中　主任児童委員部会　中村 惠美子 委員（元城・県居地区民児協会長）

中央区中では、33名の主任児童委員が在籍しています。各委員は担当小学校・中学校を受け持つため、なんと言っても学校とのつながりが重要です。校長先生の考え方で主任児童委員への情報開示の度合いも左右されるのが現状ではあります。

今期の3年間は、「主任児童委員の在り方と周知を考える」をテーマに活動しています。

１年目は一期目委員の研修を中心に、主任児童委員が相談できる児童相談所・ルピロ等の見学と障がい児への理解を深めました。

２年目は、新設の浜松市子ども家庭センターの説明や担当スクールソーシャルワーカー（SSW）との有意義な懇談で情報交換出来ました。

施設見学では、57年の歴史があり、聖隷福祉事業団が運営している「浜松学園」を訪問しました。

入学倍率と高い就職率には驚きましたが、生徒さんの表情と実習を見学することで納得でした。

３年目は、個別の支援方法や事例を共有しながら、児童養護施設の見学と委員同士の活動交流をして、次期の活動につなげる予定です。

中央区中　障害福祉部会　鈴木 加吉 委員（萩丘中地区民児協会長）

私達の中央区中障害福祉部会の構成委員は96名で約80％の方が本部会初参加です。

それゆえ、今期３年の目標として「障がいを正しく知り、理解する」を掲げ、１年目は障がい福祉の基礎、機関、制度などを学びました。また、障がい児を持つ母親の思いを聞く機会を設け、子どもの障がいを受け入れるまでの心の葛藤を伺い、深い感銘を受けました。２年目となった本年度第１回研修は発達障害について学びました。第２回は災害が多発している状況をふまえ市社協、障害保健福祉課に依頼し、「福祉避難所」について学びました。福祉避難所への受入れ対象者は「要配慮者」と言い、次のように定義されていました。

1. 市が設置する指定避難所での生活が困難
2. 常時介護を要しない
3. 在宅の高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦、傷病者、難病患者等

また、これらの要配慮者より重度の生命維持装置を必要とする方は、病院または親の責任で医療行為を行うということも知りました。

施設見学については任意の見学として聴覚および視覚の特別支援学校、中学校の特別支援学級等の学校公開日を利用しての見学を促しました。障害福祉部会の施設見学として西部特別支援学校を８回に分けて訪問させていただきました。普段見ることができない校舎内施設、補助器具、生徒の様子を通して部会委員の心に残ったメッセージがあったものと推察します。

中央区西　高齢者福祉部会　宮澤 俊英 委員（神久呂地区民児協会長）

令和５年度は、高齢者福祉の基礎知識や実態について学んできましたが、２年目となる令和６年度は、「現状についての知識を深めていく」というテーマで、研修会を２回開催しました。

第１回研修会は、「高齢者をめぐる情勢について学ぶ」で、地域包括支援センター大平台・雄踏・和地の各所長から 、「介護保険制度の移り変わり、地域包括支援センターの役割、介護保険利用の流れ、サービスの種類、人材不足について」、市社協西地区センターの副地区センター長からは、「日常生活支援事業・成年後見制度」について講義をいただきました。地域の高齢者をサービス利用につなげるために地域包括支援センターと密接に連携を取る事が大切だと感じました。また日常生活自立支援事業と成年後見制度を利用して、不安やトラブルを防ぐ事が出来る事を学びました。

第２回研修会は、「高齢者施設を見学し役割を理解する」で、西山病院グループを見学し、介護予防の取り組みと西山病院が提供するサービスが多岐にわたる事、未来型デイケアのコンセプトと機能について説明を受けました。デイケアの規模と先進性、職員の熱意に驚きました。

中央区南　児童福祉部会　原 ひろみ 委員（白脇地区民児協会長）

令和５年４月に新メンバーで始まった児童福祉部会。民生委員・児童委員とはいえ、日頃の活動は高齢者対応が多く、児童福祉について何をどう学んでいくのか…先ずは運営委員全員で、児童福祉に対する思いを共有することから、１年目は手探りでスタートしました。

２年目となる今年度は、「児童虐待の現状、予防と早期発見・対応について」、「児童福祉に関わる民生委員・児童委員の役割」というテーマで取り組んできました。

そして２年間の活動を振り返ると、テレビや新聞等でしか知らなかった事を、現実にそこにある問題として捉える事が大切なのだと気付かされました。

児童福祉法では、乳児から18歳未満と定義されている児童。その年齢により、私たちの見守り方や範囲も変わります。また、その子の個性や障害、あるいは家庭の事情等で様々な問題を抱えている子どもがいます。テレビの中の話だけでは無く、実際に声を上げられない子どもたちがいます。

小中学校や放課後児童会等とつながる手段、地域のネットワークづくりが不可欠です。私たちはもとより、地域の交通安全ボランティアや見守りボランティアの方々の日頃の気付きが、とても大切なのだと感じました。

４月からの最終年度、発達障害児への理解を深め、その支援についての学びを進めたいと思います。

浜名区北　生活福祉部会　鈴木 義昭 委員（引佐地区民児協副会長）

浜名区北生活福祉部員は区再編により、38人から29人となりました。三分の二にあたる19人が一期目委員、他10人は二期目以上の委員です。

この経験の浅い委員が多い実情に鑑み、生活福祉部会としての取り組みの柱を以下の２本としました。

1. 講師を招聘し、講演・講話等により生活福祉に関わる基本的な取り組みについて理解を深める。
2. 生活福祉に関わる実践や取り組みの事例を紹介・共有することで実践力を高める。

本年度は天竜厚生会の山本理事長（当時）、県ボランティア協会の鳥羽事務局長を講師に招き、生活困窮者への支援の在り方や災害時における民生委員・児童委員の役割について学び、理解を深めることが出来ました。

また、事例検討の研修では活発な意見が交わされ、他の委員の実践事例から自身の取り組みの幅を拡げることが出来ました。

民生委員・児童委員としての活動は熱心にされているものの、生活福祉に関わる活動となると委員間におけるムラが多く、まだまだ実践力を高めていく必要があると思います。

●外部研修等報告（令和6年10月1日～令和7年2月14日）

研修名	開催日	開催地	参加人数（浜松市）
令和6年度全国民生委員・児童委員リーダー研修会	10月17日～18日	東京都千代田区	4名
令和6年度全国民生委員児童委員大会	11月20日～21日	宮崎県宮崎市	15名
令和6年度全国民生委員指導者研修会	2月5日～7日	神奈川県三浦郡葉山町	2名

●研修（市民児協主催等）実績（令和6年10月1日～令和7年2月14日）

研修名	開催日	会　場	参加人数（浜松市）
令和6年度中堅委員研修会	10月23日	サーラ音楽ホール	601名
令和6年度理事研修会	1月21日	ホテルクラウンパレス浜松	14名
令和6年度リーダー研修会	2月4日	福祉交流センター	52名

理事研修会

リーダー研修会

編集委員

●野末あけみ（部会長）
●髙橋　則男　●鈴木　三雄　●宮澤　俊英　●津川あけみ
●渥美由美子　●村瀬　純子　●犬居和賀代（オブザーバー）